

吉小わくわくボランティアだより

地域に根ざす学校応援団事業 令和4年3月発行 第22号



校長 二平 芳信
コーディネーター 堀 健一

深い郷土愛に感謝！

校長 二平 芳信

伝統ある越後味噌が閉店しても、食生活改善推進委員の皆様や、JA の皆様、ひうら農場さんのおかげで味噌づくりの体験活動を存続できました。コロナの感染拡大でピンチを迎えた米作りも、ボランティアの方々ที่田植えをしてくれたのおかげで、子どもたちは無事に収穫・脱穀を体験することができました。他にも鋤起銅器体験など、ボランティアの方々がいなかったらできなかった活動がたくさんあります。本当に感謝申し上げます。

そして、郷土の子どもを愛するボランティアの方々によって子どもたちは幸せだと感じています。



鋤起銅器

4年生は社会科で「燕市の特色」を学習し、ものづくりのまちとして全国的に有名なことを改めて知りました。そこで、燕市の伝統文化の学習として無形文化財である「鋤起銅器」の体験を12月に行いました。講師には、高橋純一様と高橋輝明様をお願いし、大勢のボランティアの皆様からも手伝っていただきました。これまでの総合的な学習の時間に、鋤起銅器について調べ、その歴史や作り方、技術のすばらしさを知った子どもたち。自分だけの作品を作ろうと、当日を楽しみにしていました。実際に模様を打ったり、形を整えたりする作業では、その難しさを実感し、改めてその技術に感動していました。出来あがった作品は、すでに持ち帰りました。

大豆の種蒔き



2年生は6月に大豆の種蒔きをしました。その後、11月に大豆の収穫を行いました。いずれも、指導者やボランティアの方と一緒に活動しました。大豆を仕込むと、来年には味噌ができてあがりま。今から、3年生になって完成した味噌に出会えることを楽しみにワクワクして待っています。

味噌の完成



3年生は前年の2年生時に仕込んだ味噌の天地返しを7月に行い、12月に実施した味噌学習の発表会と感謝祭に指導者と地域ボランティアの皆様を招待しました。発表会で学習した内容を聞いてもらった後、感謝祭ではお裾分けしてもらった味噌の味を堪能し、格別の美味しさを味わうことができました。

稲刈り作業



5年生は、総合的な学習の時間に稲作体験を行い、社会科の時間に日本の食料生産と結び付けて学習しました。コロナ禍のため、残念ながら春の田植えを体験することは叶いませんでした。しかし、秋の稲刈り・脱穀は実施でき、お手伝いいただきました。5年生が12月に学習のまとめ発表会と感謝祭を開催し、ボランティアの皆様を招待しました。



5年生は、初めて触る脱穀機におっかなびっくりの様子です。そこへ、ボランティアの方が手を差し伸べて、上手に安全にサポートしていただきました。



12月7日の稲作学習発表会&感謝の会に招待されました。5年生が学習したまとめを発表した後、感謝状と手作りのメダルをプレゼントしました。



マラソンボランティア



学習活動ボランティア



フラワーサロンクラブ



燕ジュニア検定

『できることを、できる時間に参加する』

令和3年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を講じながら、計画していた活動を予定通りまたは縮小しつつ実施しました。令和4年度は感染拡大の状況を見極めながら活動の輪を広げ、多くの皆様からボランティアに参加していただきたいと思います。

＜吉田小学校を支える主な学校応援団体＞

支援団体名	活動内容
燕市交通安全指導隊	隔週の交通安全指導、燕市・警察署と自転車教室の指導を支援。
燕市交通安全協会・吉田支部	登下校時の交通安全指導や燕市・警察署と自転車教室の指導に協力。校外学習引率なども支援。
吉田地区まちづくり協議会	総合学習等の支援。 学区内の日々の生活安全を守るため、防犯巡回などを実施。(防犯部)
食育改善推進委員会	味噌づくり、味噌を使った調理学習等の支援。
吉田小・PTA街頭指導	春・秋、交差点や危険箇所での立哨し、安全確保や交通安全指導を実施。
NPO法人・BAKKA舎	定期的に図書室で本の紹介や修繕、整備を実施。
吉田おはなしの会	学年児童に読み聞かせを実施。
フラワーサロンクラブ	玄関前や校庭に多くの花を咲かせ、たくさんの笑顔が生まれるよう支援。

◎吉小わくわくボランティア募集！！・・・できることをできる時間にすることを忘れずに無理なく参加できる貴方をお待ちしています。お気軽にお問い合わせください。
 吉田小学校 (0256) 93-3246 (教頭)
 地域コーディネーター 携帯080-8442-9341 (堀 健一)